

創ろう!エネルギーギッシュな商店街!

菊池謙汰¹・村上潤²・吉川駿汰³

¹⁾²⁾³⁾熊本大学工学部社会環境工学科 4年

近年,我が国の商店街は空き店舗数の増加や客足の減少,客層の高齢化などの問題を抱えており,それは熊本県も例外ではない.そこで,私たちは健軍商店街を対象に学生達を取り入れた商店街の活性化を目的とした活動案を提案する.学生が参加する意図は学生ならではの意見や考えなどを商店街振興会の方々にも共有してもらうことである.学生とともにイベントや催し物の提案,実施を行っていくことで,老若男女問わず,さまざまな人たちに商店街を利用してもらう.またそこで学生や商店街の方が積極的に交流を図っていくことによって,まちのコミュニティを形成していくことも可能であり,より商店街の活性化にもつながるとも考えられる.学生と商店街が連携してまさに”エネルギーギッシュ”な商店街を創りたい.

1. 政策提言の背景

熊本県含め,日本の商店街を取り巻く環境は厳しく,少子化による人口減少や後継者不足,消費スタイルの多様化や大型ショッピングセンターとの競争など,様々な課題を抱えている.その中の大きな課題の一つとして,空き店舗の増加がある.空き店舗の定義としては,非商店や本格的な駐車場,空き地以外で内外装を施す程度で店舗として利用でき,貸主が課す意思があるものの課していない店舗を指す.「シャッター通り」という言葉をよく耳にするよう,空き店舗の存在は,それ自体が商店街にとって悪い影響を及ぼし,観光客や来街者に「廃れた商店街」というイメージを与えてしまう.空き店舗の増加は,熊本県でも問題となっており,特に健軍商店街の空き店舗率が高かった.図-1に示すよう,健軍商店街の空き店舗率は,過去三年間 10%を超える値を示しており,熊本市全体と比較しても非常に高い傾向にあった.空き店舗の問題は,見過ごすことのできない問題となっている.

また,もう一つの大きな問題として,商店街の若者離れがある.多くの商店街では現在,主な客層は主婦や高齢者となっている.熊本県内も例外ではなく,熊本県商店街実際調査によると,商店街客層の約6割は主婦と高齢者となっており,学生は約1割と商店街の若者離れが進んでいる(図2).年代層の高い客層に頼っている商店街では,時代の流れに合わせた発展が遂げられず,商店街の衰退に拍車がかかる.

このような現状から熊本県は、「補助制度や融資制度の紹介」や「空き店舗情報周知の強化や出店者募集等のPR活動」などの取り組みを行っている。

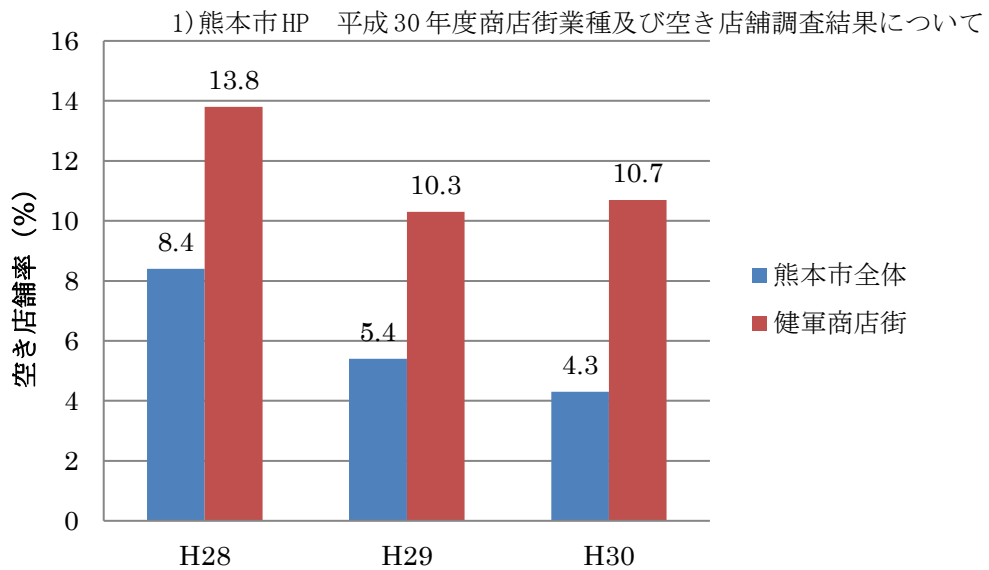


図-1 健軍商店街と熊本市全体の空き店舗率の比較

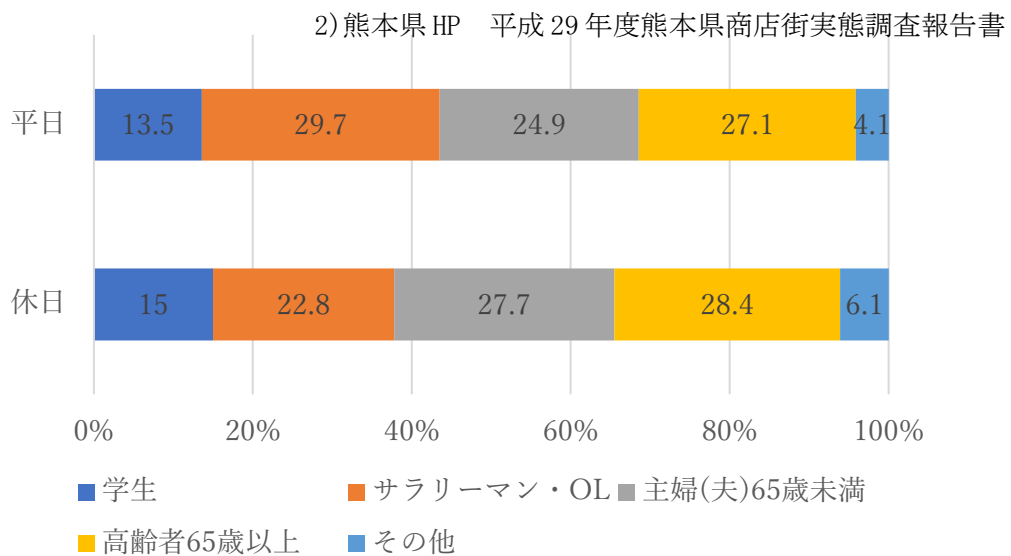


図-2 H29年熊本県の商店街の平日と休日の客層

2. 政策提言によって解決したい課題

商店街の衰退の原因となっている2つ

- ・ 空き店舗の増加
- ・ 若者の商店街離れ

上記の課題を解決するために私たちは商店街振興会と学生が話し合える場を設け、学生ならではの意見を取り入れた政策を行うことを商店街の活性化案として提案する。

3. 課題解決の具体的な手法

具体的な商店街活性化案としてまず、商店街関係者、大学および学生、行政で商店街の活性化のためのシンポジウムの開催を提案する。シンポジウム開催の趣旨は現在の商店街の抱えている問題の究明や活性化の新たな担い手となる学生と同じ目線で勉強や交流するというものである。シンポジウムでは事前に学生や企業が準備したプロジェクト案のプレゼンや、パネルディスカッションを行う。またシンポジウムの際にイベントやプロジェクト等の企画も進めることができる。ここで、商店街活性化プロジェクトの学生、大学、商店街、行政の連携の関係性を図3に示す。

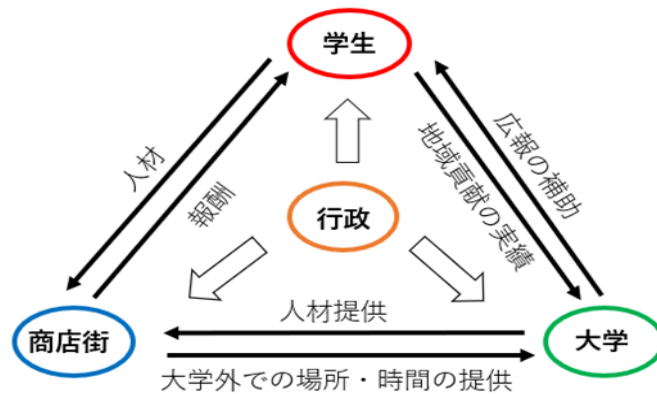


図-3 学生、大学、商店街の連帯体制

次に空き店舗を利用する若者離れの課題解決案としては、三つの案を提案する。

一つ目は、誰でも無料で利用できる休憩スペースを設置することである。休憩スペースには、学生が勉強できるよう椅子やテーブルを設けたり、ゆったりとできるソファを設置する。また、無料のWiFiも設置する。休憩スペースの利用可能時間は、商店街の人や地域住民、利用者の声を参考に決める。

二つ目は、貸し出し店舗の設置だ。この貸し出し店舗を利用し、学生と健軍商店街住民の定期会議の場を設ける。定期会議の日以外は、時間予約制で希望者に貸し出しを行い、希望者の用途に応じて自由に利用してもらう。貸し出しの予約状況については、健軍商店街のホームページで随時更新し、確認できるようにする。また、個人への使用料については個人が負担し、定期会議の貸し出しの場合は、行政が負担する。使用料については、空き店舗の家主が決める。

三つ目は、学生主体で運営する預かりサービスの場を設けることだ。大阪府の池田地区にある栄町商店街では学生による空き店舗活用事業の一環として子供預かりサービスを行っており、具体的には週一回小学校低学年を対象とし宿題をチェックしたり、一緒におやつを食べたり子供に楽しんでもらえるような場を設けている。健軍商店街の近くには小学校のほかにも中学校も多くあることから、私たちが提案する案では対象は小学生と中

学生とし、別々のサービスを提供する。具体的な内容例については下の表 1 に示す。

表-1 預かりサービスの具体的な内容例

	小学生	中学生
内容	宿題チェック,学生と一緒に遊ぶ	勉強面でわからない箇所を解決する
営業時間	毎週月曜日午後 5 時~7 時	毎週水曜日午後 5 時~7 時
料金	1 回 1000 円(おやつ込み)	1 回 500 円
定員	20 名	20 名

3)池田市 HP 学生による商店街空き店舗活用事

また、現代社会において大きな影響力をもつ Facebook や Twitter などの SNS を用いたイベント開催や貸し出し店舗の内容の告知を行う。

4. 課題解決策の特徴, 重要性, 有効性

上記の具体的な手法の重要性・有効性をそれぞれ述べていく。

まず、シンポジウムの開催についてだがディスカッションを行うことで意見の創出や問題点の共有, 意識向上などの効果が見込まれる。また学生, 商店街関係者, 行政間での有益な交流もできる。

つぎに休息スペースの提供は学生や地域住民が集まることで老若男女さまざまな年代での交流の機会を創ることができる。自由スペースは学生や市民による出店や学生によるイベントなど商店街に目新しさがでて, より興味を持ってくれることが予想できる。

最後にあずかりサービスは, 預かってもらった親や地域住民と学生間の信頼関係を構築し, また子どもを引き取る帰りにほかの店舗によるきっかけを作り出すことができる。

参考文献

- 1)熊本市 HP 平成 30 年度商店街業種及び空き店舗調査結果について
- 2)熊本県 HP 平成 29 年度熊本県商店街実態調査報告書
- 3)池田市 HP 学生による商店街空き店舗活用事業